

しかくしょう 視覚障がい



なん げんいん しかく しょう まった
何らかの原因で視覚に障がいがあることにより、全
く 見え ない 場合 と 見え づらい 場合 と があります。 見え
づ らい 場合 の 中 には 「 暗い ところ で 見え にくい 」 「 見
える 範囲 が 狭い 」 「 特定 の 色 が 分 かり にくい 」 などの
しょうじょう
症状 があります。



はくしょう
「白杖SOSシグナル」
はくしょう ずじょう ていど かか
白杖を頭上50cm程度に掲げ
てSOSのシグナルを示してい
ます。

しょう れい 障がいの例

- ぜんもう し かくてき じょうほう まった え また え しょう
全盲…視覚的な情報を全く得られない、又はほとんど得られない状
たい
態。
- じゃくし も じ かくだい しかく ほ じょ ぐ しょう ほ ゆう し り ゃく かつ よう
弱視…文字の拡大や視覚補助具などを使用し保有する視力を活用で
きる じょうたい し り ゃく ひく じょうたい ほ か み はん い せ ま ひかり
状態。視力が低い状態の他に、見える範囲が狭い、光をまぶし
く 感じる、 明 る い と ころ で は よ く 見 える の に、 夜 や 暗 い と ころ で は
み
見えにくくなる状態も含まれます。



こんなサポートがうれしい！

い どう こま ゆうどう たす
移動に困っていたら、「誘導」が助かります。

慣れていない場所では、進行方向が分からなくなることがあります。まずは「お手伝いしましょうか？」など声を掛けてください。誘導するときはその人の半歩前に立ち、肘や肩をつかんでもらいましょう。本人の歩きやすい方法でペースを合わせて歩くと安心して進むことができます。階段や段差がある場所では声で教えていただければより安心できます。

とつぜんからだ ふ ぜんぼう こえ か
突然体に触れず、なるべく前方から声を掛けてください。

め じょうほう え おんせい て ふ じょうほう え
目から情報を得にくく、音声や手で触れることなどにより情報を得ているので、突然体に触られると驚きます。体に触れる前に、なるべく前方から話しかけるようにしてください。また、「あいサポーターの〇〇です」など簡単な自己紹介をしてください。

ぐ たいてき せつめい
「こちら」「それ」ではなく、具体的に説明してください。

「こちら」「あちら」「これ」「それ」などの指示語や、「赤い看板」など視覚情報を表す言葉では、「どこ」か、「何」が分かりません。「30センチ右」「時計で3時の方向」など具体的に説明してください。場合によっては、手で触れながらの説明も分かりやすいです。

はいりょ
配慮があれば、できることがたくさんあります。

ひとりで移動している際に点字ブロックの上に自転車などが置かれていると危険です。また、印刷物等に点字や音声案内が付いていると理解しやすくなります。少しの配慮や手助けがあれば、できることはたくさんあります。音響信号の押しボタンを「押しましょうか？」と声を掛けてもらえるだけでも助かります。

たと
例えば、こんなことがあります。

みせ ほんこうてつづ さい せつめいしよ
店でポイントカードなどの発行手続きをする際、説明書があつても読めないことがあります。また、申請書があつても必要事項を把握して記入欄に記載することが難しい場合があります。このようなとき、窓口の担当者に説明書を読み上げてもらったり、代わりに申請書に記載してもらおうと助かります。

